

令和4年度 日向市立財光寺小学校 学校関係者評価書

学校経営ビジョン

【学校の教育目標】たくましく、なかよく生きる、かしこい財っ子の育成
 【学校経営ビジョン】「チームで、子ども一人一人を大切に育てる学校」

- ①一人一人に将来必要な力をつける学校 ②職員、保護者、地域みんなで教育に関わる学校 ③笑顔あふれる学校

評価項目		教師アンケート	評定	保護者アンケート	評定	児童アンケート	評定	総合評定	保護者コメント	結果分析	評価	コメント	
一人一人を大切に する学校	楽しい学校	① 児童が、楽しく学校で過ごせるよう手立てをとっている。	4.3	① お子さん、楽しく学校に通っている。	4.4	① 学校は楽しい。	4.7	4.4	・コロナ禍で沢山の制限や責任が課せられ、先生達は本当に大変だったと思います。その中で、工夫を重ねて何とか行事を開催してくれ、我慢する事の多い今の子供達に楽しい思い出を作ってくれた事に感謝しています。ありがとうございました。	・児童が楽しく学校で過ごせるように、教師側が手立てをとっている以上に、子どもたちは、学校が楽しいと回答しており、子どもたちの自己肯定感の高さを感じます。同様に、児童の賞賛について不足していると教師側は感じているものの、先生たちがほめてくれていると感じている子どもたちが多い。 【改善策または継続策】 ・我が子が楽しく学校で過ごせていることは、保護者にとってうれしいことである。児童が、「学校が楽しい!」と家族の会話の中でも話題が出るように、職員一同、より一層の手立てを講じていきたい。 ・気になる児童に関しては、全職員で共通理解しながら、全職員で見守る体制を図っていきたい。また、関係機関等や地域とも連携を図りながら組織的に対応していきたい。	4.3	・コロナ禍において保護者並びに先生方が知恵を絞って取り組んで授業を行ってこられたことが、いかに大変だったかよく分かります。子どもたちも楽しく学ぶ喜びを感じ取れました。 ・運動会や総合学習の時間を見ていると、教師が子どもたちを楽しませているというより、子どもたちと一緒に楽しんでくれている印象があります。子どもたちの信頼や安心感と、教育目標の「なかよく生きる」にもつながる、とても良い雰囲気だと思います。 ・「一人一人を大切に育てる学校」そのビジョンを遂行していく過程で、今一歩踏み込んだ「誉めるべきは誉め、叱るべき所は叱る」といったメリハリのある指導の継続を希望します。 ・悪いこと(児童による迷惑行為、授業の中断)を罰せられなかったら、勝手気ままにしたい放題になってしまう恐れがあるとのこと。(授業に集中しない、教科書忘れ、ノートに書かない、先生の言うことに対し無視をするなど)まじめに授業を受けている児童が迷惑する。 ・全体的に個人差があり、理解力や集中力が乏しい児童がいる。その子どもたちのやる気を出させるように先生が優しさと厳しさを混ぜ合わせてのご指導に頭が下がります。	
	児童のやる気を引き出す活動と児童の活躍に対する賞賛	② 児童のやる気を引き出す活動を多く取り入れながら、がんばりを認め、賞賛の言葉かけ等を行っている。	4.2	② 学校は、子どもたちのやる気を引き出す活動を多く取り入れながら、がんばりを認め、ほめる取組を行っている。	4.1	② 先生たちは自分のがんばりをほめてくれる。	4.6	4.3					
学力の向上(一知)	教師力の向上	③ 児童の学力向上のために「わかる授業」や「学習内容の定着の工夫」を行っている。	4.1	③ 学校は、子どもたちの学力向上のために「わかる授業」や「学習内容の定着の工夫」を行っている。	4.0	③ 先生が教えてくれることや授業は、分かりやすい。	4.7	4.3	・宿題については、子どもに間違っただけで教えることがあるため、宿題に出すプリントの答えを配付していただきたい。 ・宿題の丸付けについて、プリント類の解答を保護者に持たせてほしい。丸付け、やり直しまで今は家庭でしているの、きちんと指導できるようにしたいので解答の管理も家庭に委ねたい。 ・昨年は牧水カルタを頑張っていたのに今年はカルタ大会に出ることもなく残念に思ったので、1年で終わるのでなく先生が変わっても継続出来るような取組みがあるとよいと思いました。 ・1クラスの生徒数が多いため教科によって学力の差があるように感じます。合わせて学習指導が行き届いていないとも感じます。特に算数は少人数制やフォロークラスを増やしてほしい。高学年になるほど算数は複雑になり進むペースも早いので苦手意識を持った子供はそこでつまづいてしまいます。コロナ以降感染症などで長くお休みする子もいますので授業フォローは重要だと考えています。 ・家読:良い取り組みだとはおもいますが、週末にして欲しい。理由:1年生で本の内容を理解するのに時間を要すると思う。(早めに読ませていても、外国の童話と指定があったら意味ない。) ・宿題が多すぎます。(特に冬休み)年末年始の行事を体験させることに、もう少し時間を割きました。マイプラン学習がよいと思いました。	・教師力の向上においては、教師側が今一歩工夫が足りないと感じているが、多くの児童は先生が教えてくれることや授業は分かりやすいと回答しており、教師が思っている以上に効果は出ているようである。人数制限のある参観日や不十分な懇談時間のため、教師が行っている工夫を十分に伝えることができていないようである。 ・今年度、GIGAスクール構想により、児童一人一人にタブレットが配置されたが、教師にとってはタブレットを活用した授業を試行している段階であり、手応えを十分に感じ取れていない状況である。しかし、児童にとってはタブレットの授業を楽しみにしている児童が多く、今後、その意欲を生かして教科指導を充実させていきたい。 ・「家庭学習」においては、我が子の家庭学習に関わっている保護者が多く、児童も忘れずに取り組んでいることが分かる。	3.7	・保護者からの要望に対してすべてをかなえることはできませんが、保護者の立場に立って応えるのが望ましい。さらに子どもの気持ちに寄り添って苦手科目を克服する授業を進めて欲しいと感じました。 ・タブレットを使用した授業は分かりやすくてよいことだと思いますが、まだ使い方が身に付いていないところがあるのかもしれない。今度、スムーズな活用が出来れば学力アップにつながるのではと感じます。 ・宿題の丸付けややり直しを家庭で行うのはとても大変なことだと思いますが、子どもの得意なこと、苦手なことが分かるのは、とてもいいことだと思います。ただ、保護者のコメントにあるように、家庭でもスムーズにできるように工夫が必要なのかなと思います。 ・授業内容やタブレットを工夫しているおかげで、少なくとも子どもたちのほとんどは分かりやすくと捉えています。一方で、タブレットでの教育や家読への親の関わりが低いのは親自身がタブレットを使いこなせず、家で読書をしていない影響が大きい。学校側の努力だけで解決できる課題ではないので難しいが、タブレットを活用した家庭教育のツールやアプリなど、今年度のGIGAスクール構想での進展に期待したい。	
	教科指導	④ 授業の中で、タブレットパソコンやICT機器等を使いながら一人一人に応じた指導をしている。	3.6	④ 学校は、授業の中で、子どもたちの学力向上のために、タブレットパソコンを使いながら一人一人に応じた指導をしている。	3.5	④ タブレットを使っての授業は、楽しくて分かりやすい。	4.7	4.0					
	家庭学習の習慣化	⑤ 宿題や読み声などの児童の家庭学習に対して、保護者に丸つけや声かけ、励ましなどをしてもらおうと啓発している。	3.8	⑤ 保護者として、宿題や読み声などのお子さんの家庭学習に対して、丸つけや声かけ、励ましなどで関わっている。	4.2	⑤ 家で宿題や学習などにきちんと取り組んでいる。	4.6	4.2		【改善策または継続策】 ・これからも、ICT(情報機器)を活用した授業づくり等に積極的に取り組んでいく。 ・OJT(教師相互の学び合い)や相互授業参観等を通して、教職員の一層の授業力、指導技術の向上に努める。 ・花まる先生や地域の方々の協力を得ながら、授業支援や個別指導の充実を図っていく。 ・「家読(うちどく)の習慣化」については、保護者がお子さんの関わりについて、あまり関わっていないという回答が多かったため、その大切さや取組の工夫を保護者に啓発していく必要がある。		・低学年の算数ですらに差がついている。花まるサポートについては1年生から実施してもいいのではないかと。	
	家読の取組	⑥ 「家読(うちどく)」の取組に向けて、児童や保護者に環境づくりや声かけを行っている。	4.2	⑥ ご家庭で、「家読(うちどく)」の取組に向けて、お子さんが家で本を読むための環境づくりや声かけを行っている。	3.6	⑥ 家でよく本を読んでいる(読書をしている)。	4.0	3.9					

豊かな心の育成【徳】	よりよい人間関係の醸成	⑦ 児童のよりよい人間関係づくりやいじめを防止するための取組に努めている。	4.5	⑦ 学校は、子どもたちのよりよい人間関係づくりやいじめを防止するための取組に努めている。	3.8	⑦ クラスやまわりの友だちと仲良くしている。	4.7	4.3	・参観日の日に募金箱を設置し、募金を募る。 ・民生委員の方々には毎日の見守りとしても感謝しています。各家庭で交通安全、挨拶の指導を徹底するべきだと思います。 ・メディアルールについて、他の家庭がどんなルールを掲げているか紹介して欲しい。 ・メディアチャレンジの内容ですが、かなり古い思想の元行われていると思います。数字の無い根拠に乏しい事もある為、もう少し学んでから行うべきです。	・いじめの防止については、毎月、いじめアンケート等による実態把握から、教育相談、いじめ対策委員会での情報共有、指導・観察・見届けというサイクルにより、学校全体で取り組むことができた。児童のほとんどが、周りの友達と仲良くしていると回答している。しかし、保護者にとっては、不安に感じている状況が本集計結果からうかがえる。 ・あいさつ・会釈については、校内での実践はよくなってきているが、地域でのあいさつがもう少しである。保護者を巻き込んだあいさつの励行も検討していかなければならない。 ・メディアコントロール(メディアチャレンジ)の取組を年2回実施した。この期間だけは、メディアに触れる時間を制限し、自分にとって有意義な時間や家族との過ごす時間に充てるという意識付けの週間を設定した。	・家の地区の子どもたちは、あいさつをしてくれませんが、こちらも積極的にあいさつしようと思います。 ・あいさつについては、私が小学校校区で暮らして出て会う子どもたちはほとんど率先してあいさつしてくれるし、中学生になっても変わらない印象をもっている。 ・あいさつについて、朝の登校時のあいさつはできる子でできない子がはっきりしている。班長があいさつをしないと班全体が悪い。 ・あいさつについては努力が必要だと思います。
	あいさつの励行	⑧ 地域や家でも、児童がしっかりとあいさつができるように指導や声かけを行っている。	3.9	⑧ ご家庭で、地域や家でもお子さんがしっかりとあいさつができるように指導や声かけを行っている。	4.3	⑧ 家や地域でもあいさつや返事をきちんとしている。	4.6	4.3	【改善策または継続策】 ・毎月のいじめアンケートをもとに日々気になる児童の観察を行うとともに、いじめを見抜く教師の目、絶対に許さないという学校全体の雰囲気や醸成されるような研修、対策会議を継続的に実施していく。また、普段からアンテナを張り、児童の些細な変化に気付くようにしておく。問題行動に関しては早期解決に心がけられるとともに、通信や安心安全メール等を通して情報を発信し、児童・保護者への規範意識の向上を図る。 ・全職員、保護者、地域を巻き込んだ「あいさつ運動」を推進する手立てを工夫する。 ・メディアコントロールの取組については、各家庭の取組も情報共有しながら、他の家庭の参考となる資料を提供していく。	・いじめ対策防止は大変難しいと思います。いじめた側は忘れても、いじめられた子どもは絶対に忘れてはいけない。いじめる子どもは、家庭環境等何らかの不満が行動に表れいじめに走る。保護者、先生方など、早めに対応が必要だと思います。 ・いじめについての保護者の不安は、そもそもいじめがあるのかどうか、あるならどういうケースなのかなど(プライバシーを最大限に守るべきだが)ある程度の情報が見えないと安心や理解にはつながらないと思われる。 ・1日の大半を学校で過ごす中で、いじめや規則の無視になりかねない児童等についての指導を保護者も含めて必要かと思われず。学校だけでなく保護者の意識、自覚をお願いしたいと思う。	
	メディアコントロール	⑨ メディア(スマホ・タブレット・ゲーム等)の適切な使い方について、適宜、指導している。	4.0	⑨ メディア(スマホ・タブレット・ゲーム等)の使い方についてお子さんと話し合い、家庭でルールを決め、約束を守らせている。	3.8	⑨ 携帯・スマホ、タブレット、ゲームの使い方のやくそくを守っている。	4.4	4.1	・【メディアルールについて】子どもはゲームを始めることと終わらないほど大好きな子どもが多い。ここは家庭協力が一番と思います。健康に悪い、学力低下など、学校で伝えていても、家に誰も居ない、家族会議でルール作りをするのが望ましい。 ・時代の流れもあり、メディアから離れるのは難しいと思うので、小さなことでもできることを日々行うなど、その時代、年代にあったチャレンジが必要なのかなと感じます。 ・メディアコントロールについても、表面的な励行ではなく、家庭での実態や失敗、今の中高生が後悔していることなど、リアルな情報が見聞きできると保護者も子どもも現実感のある取組が進むのではないだろうか。 ・メディアは利用を0にすることはできないので、時間を決めて計画的に利用するとよい。	7.7 ・【メディアルールについて】子どもはゲームを始めることと終わらないほど大好きな子どもが多い。ここは家庭協力が一番と思います。健康に悪い、学力低下など、学校で伝えていても、家に誰も居ない、家族会議でルール作りをするのが望ましい。 ・時代の流れもあり、メディアから離れるのは難しいと思うので、小さなことでもできることを日々行うなど、その時代、年代にあったチャレンジが必要なのかなと感じます。 ・メディアコントロールについても、表面的な励行ではなく、家庭での実態や失敗、今の中高生が後悔していることなど、リアルな情報が見聞きできると保護者も子どもも現実感のある取組が進むのではないだろうか。 ・メディアは利用を0にすることはできないので、時間を決めて計画的に利用するとよい。	
きまりを守る	⑩ きまりや社会でのルール・約束を守る大切さについて指導を行っている。	4.5	⑩ 学校は、きまりや社会でのルール・約束を守る大切さについて指導を行っている。	4.2	⑩ 学校のきまりや約束をきちんと守っている。	4.6	4.4		・下校時の帰りのマナーが悪く、車を運転する方も迷惑をかけていると思う。		
体力の向上【体】	体力向上	⑪ 体育の授業や外遊びの推進等により、体力づくりに取り組ませている。	3.8	⑪ 学校は、体育の授業や外遊びの推進等により、体力づくりに取り組んでいる。	4.1	⑪ 体育の授業や昼休みの外遊びで体をたくさん動かしている。	4.4	4.1	・運動会の午前中開催 ・コロナ禍で行事開催が難しい中、先生方が協力し工夫して実施して下さることに感謝しております。小学校に入学して初めて全校児童が集まる運動会を経験できたことは本当にありがたさを感じます。 ・体育で去年までは体操服の下に長袖着用可だったのが、なくなった理由が知りたい。学校が指定しているのは、衣服の調整を自分でしていき生活力が身につくかもしれません。コロナやインフルエンザで神経質な時期に風邪をひいたら、親も仕事を休む等影響が出るのでやめていた方がいい。 ・昨年、オーブンスクールに行かせていただきました。コロナ禍の中、ただでさえ神経を使い、大変なのに、一生懸命な先生たちの姿勢に感動しました。ただ、気になることが、ひとつありました。いくつかの教室で、天井の照明の蛍光灯がチカチカと点滅していました。接触不良か寿命なのかと思いましたが、あの照明の下で子どもは過ごすのかと思うと、首をひねざるを得ませんでした。 ・メディアなんかと比べて、学校からお知らせが来ますが、あのチカチカと点滅する蛍光灯こそ、子どもの視力や脳にかなりの影響を及ぼすのではないのでしょうか。私の子どもも、授業クラブも利用していますが、電球が壊れるのでしょが、迎えに行くとき、いつも蛍光灯がチカチカと点滅していて、その下で本を読んでいます。聞くところ、「基礎の老朽化らしいです」ということでした。老朽化で、子どもの健全な暮らしや発達に脅かされているものでしょうか?メディア危機感以前の問題です。適切な対応をお願いいたします。 ・冬の体育の授業で、長袖を着せてほしい。体育服の下に下着を着せてほしい。(着替えの下着を持たせませす。)	・今年度は、5月に体力テストを実施し、児童個人の体力の傾向や、学校全体の傾向を把握することができた。その結果を体力向上プランに反映させ、体力が低下している項目については、体育科の学習時に補っていく取組をした。常時活動である外遊びについては学校をあげて推奨しており、昼休みにたくさん児童が外遊びを楽しんでいた。 ・「with コロナ」のもと、マスクの着用、消毒、室内の換気等、新型コロナウイルス感染症への対応を積極的に行なった。また、基本的な生活習慣に関しては、保護者の協力を得ながら、指導しているところだが、児童の達成感はあるものの、日常の児童の様子を見て、教師や保護者にとってはまだまだ不十分と受け止めている。 ・食に関する指導については、市内の栄養教諭との連携を図った食育授業を計画的に各学年で実施することができた。また、食物アレルギーの対応については、誤飲誤食等がないよう、関係職員で万全な体制をとりながら対応をしている。	・【メディアルールについて】子どもはゲームを始めることと終わらないほど大好きな子どもが多い。ここは家庭協力が一番と思います。健康に悪い、学力低下など、学校で伝えていても、家に誰も居ない、家族会議でルール作りをするのが望ましい。 ・時代の流れもあり、メディアから離れるのは難しいと思うので、小さなことでもできることを日々行うなど、その時代、年代にあったチャレンジが必要なのかなと感じます。 ・メディアコントロールについても、表面的な励行ではなく、家庭での実態や失敗、今の中高生が後悔していることなど、リアルな情報が見聞きできると保護者も子どもも現実感のある取組が進むのではないだろうか。 ・メディアは利用を0にすることはできないので、時間を決めて計画的に利用するとよい。
	望ましい生活習慣と健康管理	⑫ 児童の健康管理や生活リズムの定着に向けての取組や指導の工夫を行っている。	3.8	⑫ 学校は、子どもたちの健康管理や生活リズムの定着に向けての取組や指導の工夫を行っている。	3.9	⑫ 毎日の歯みがきや朝ごはんなど、健康のためにきまりよい生活をしている。	4.6	4.1	【改善策または継続策】 ・体力向上プランを基に、継続して体力づくりに取り組めるよう、工夫した取組を実施していく。 ・望ましい生活リズムの定着については、学級活動等で指導し、家庭の協力を得ながら身に付けさせていく。 ・外部講師と連携しての食育授業を継続するとともに、偏食や少食の児童に対し給食の意義を理解させ改善を図っていく。	・コロナ禍において体力の低下が懸念され、それに対して保護者の皆様も心配されています。学校側も体力の向上に努め努力されていることが分かりました。 ・外遊びは子どもたちにとって楽しく体力づくりができる時間でもあるので、教師は体力的に大変かもしれないがぜひ継続して欲しい。 ・コロナ禍で全員一丸となって取り組むことが困難であったことだろうと思います。そんな状況でよく頑張ってくれたと思います。 ・全校児童が揃っての運動会が本当に良かった。 ・子どもが元気よく外で遊んだり体育をしているのは元気で良い。ただ、教室の中でも半袖で過ごしているのでは上着を着せてよいと思う。	
	食育指導	⑬ 食育の充実を図るとともに、食物アレルギー等への対応を適切に行っている。	4.3	⑬ 学校は、食育の充実を図るとともに、食物アレルギー等への対応を適切に行っている。	4.3			4.3		・規則正しい健康管理や食生活は他の項目と同じく家庭での実践や保護者自身の影響が大きい。学校側も苦慮していると思われるが、引き続き改善・継続策の内容を進めて欲しい。また、中学生になるにつれて不規則になっている現状があるので、中学からの情報を活用して小学校の教師と保護者に共有できるとよい。 ・食のアレルギーは対応が難しいと思います。一つ間違えると、命に関わる問題なので給食センター、保護者の方など、日々の体調を把握することが大切だと思います。	

地域とともにある学校	コミュニティスクール	⑭ 体験活動や地域の人材、資源を生かした学習活動を積極的に行っている。	3.8	⑭ 学校は、体験活動や地域の人材、資源を生かした学習活動を積極的に行っている。	4.3	⑬ 校外での学習や地域の人との学習に楽しく取り組んでいる。	4.5	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の日曜参観の後に物品販売の購入はお米の販売の列、物品販売の列なのか分からず、一斉に人があふれすぎて非常に購入しずらかったです。 ・PTA美化作業の平日の夕方開催 ・立ち当番の廃止（年に2回でメリットがない。子供達が下を向いたままで挨拶をしない。） ・学校メールについて。前期では余裕を持って何度かに分けて分かりやすく送ってくれていたのが、助かった。今期は行事直前等でのお知らせが多く、調整がしにくかった。 ・今年一年は、子どものクラスによつては、学校の様子などがあまりよくわかりませんでした。学校行事が少ないので学級通信、学校ホームページなどを通して、もう少しお知らせいただくとうかがいます。 ・宿泊学習が近づいた位に、様子をホームページに掲載しますとのお知らせがあるとより良いと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールについては、「with コロナ」のもと、可能な範囲で実施することができた。事業所においては、コロナ禍のため自粛させる事業所もあったため、次年度以降、児童の学習が充実するようさらに外部人材、資源を生かした活動を計画していきたい。今年度は、人材リストを作成したことで、持続的に人材活用が図れるようになった。 ・PTA活動においては、「with コロナ」の基で、実施できる活動についてはボランティアを募りながら実施することができた。しかし、ボランティアとなると、参加者の固定化が見られた。 ・地域活動への参加については、コロナ感染以前のような地域行事が復活しておらず、参加が難しいようである。 ・ホームページを通じた学校の取組やお知らせについては今一歩発信が滞っていた。 <p>【改善策または継続策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を図った授業を充実させるため、地域コーディネーターの協力を得ながら活動計画を行ってきたい。 ・PTA総会他の保護者が集まる場面で、学校から発信すべきことや小中一貫教育、コミュニティスクールの意義、地域行事、PTA行事に参加することのよさやメリット等についてより積極的に発信していく。 ・「with コロナ」の基、学校行事やPTA行事、取組の精選と計画の改善を行いながら、保護者がより参加しやすいように工夫する。 ・学校ホームページや安心安全メールを活用しながら、学校からの情報発信に努める。
	PTA活動の取組			⑮ 保護者として、PTA活動や地域での活動に積極的に参加している。	3.4			3.4	
	地域活動への参加			⑯ 地域で行われるさまざまな行事や活動に、お子さんを積極的に参加させるようにしている。	3.5			3.5	
	情報発信	⑮ 通信や学校HP等を通じて、学校内外の情報を分かりやすく発信している。	3.8	⑰ 学校は、通信や安心安全メール、ホームページなどを通じて、学校内外の情報をわかりやすく発信している。	4.1	⑭ 地域の行事や活動にすすんで参加している。	4.1	4.0	
	小中一貫教育			⑯ 学校は、幼保小連携・小中一貫教育について、幼保小中と連携して児童の教育を推進している。	3.2			3.2	

3.8

小中一貫教育に関する自己評価

①	グランドデザインは、職員の間で共通理解が図られている。	3.4
②	グランドデザインは、家庭や地域の理解が図られている。	3.0
③	めざす児童生徒の姿の実現のために、中学校区内の学校で共通実践が進められている。	3.5
④	小中一貫教育の取組により、めざす児童生徒像の姿に近づいている。	3.4